

第7回 武蔵野市中学校給食検討委員会 議事要録

■日 時：平成18年2月15日 午後6時30分～8時30分

■会 場：教育委員会室

■出席委員：佐々木委員長、原副委員長、伊藤委員、大久保委員、尾関委員、下山委員、
高木委員、賞雅委員、中野委員、長野委員、松野委員、三浦委員、屋部委員

■事務局：山上教育長、平岡給食課長、小山、坂井

■傍聴人：5人

開会

(第6回検討委員会議事要録の確認)

議題1 中学校給食の検討について

報告書の作成について

報告書(素案)について事務局説明。

【委員】 市で行なったアンケート調査についても検討委員会の話題としてきた。それに対して委員会としてどう考えたかということも触れていいのではないか。

【委員長】 アンケートは、部分的には引用しているが、もう少し報告書の中にも盛り込むということは、参考とさせてもらいたい。

【委員】 PTAで、給食はどうなっているかとよく聞かれるが、そのときのニュアンスは、弁当は毎日大変だ。だから給食にしてほしいという意識が非常に高い。そういうものが反映されていない。保護者の負担を軽減するというような視点がないから、ちょっと素案がきれいごとで違和感を感じる。家庭の負担、保護者の負担の軽減をもう少し、避けずに入れていきたいと思う。

【委員長】 先ほどの、アンケートを盛り込むということと同じように、市民の意見ということで参考にしたい。

【委員】 なぜこの中学校の給食検討委員会が始まったのか、といった理由が全く見えていないのではないか。一番の理由はやはり保護者のニーズだと思うが、それに政治がかかわって今に至っていると、そういったものを簡単でいいので、何かの形で入れていかないと、どこからこの問題意識が出てきて、何でこの委員会が設置されたかということが見え

てこない。

【委員】 保護者にとって給食の実施は、労力の軽減になることは確かだが、その中でも、たしか3割程度の方が弁当を選択しているという事実がある。その意見も報告書に反映していただきたい。

【事務局】 先ほど委員から話があった、この委員会に至る経緯については、「はじめに」の中で、過去に中学校給食について検討してきた流れも踏まえて書きたいと思っている。

【委員】 素案の内容は、「はじめに」はまだで、Ⅰがあって、Ⅱがあって、最後に提言があって、提言はまだ示されていないという、そういう理解でいいか。

【委員長】 そうだ。

【委員】 提言が先になくていいのかと思う。報告書をつくって提言をするということであれば、今までの委員会で確認したことや両論併記することについて、この委員会としての方向を確認して整理する必要があると思う。

この委員会には、中学校給食の意義に関することと、中学校給食の実施方式及び実施時期に関することが問われているが、中学校給食の意義に関することは書いてあるが、実施時期に関することがあまりないように思う。

また、今の武蔵野市の現状と課題についても触れておく必要があると思う。

【委員長】 今まで委員会では多数決ということではなく、皆さんの総意でということを中心掛けて整理してきた。その中で、給食を実現する方向ということ念頭において、具体的にどのような形で実現できるのか、制約条件は何なのか、将来はこういう形に向かっていければということ念頭に描いて進めてきた。そこで、提言についても初めに提言としてある程度できあがった方向や方針を示して、その理由づけをするという形ではなく、委員一人一人の立場、主張を尊重してまとめるものではないかと考えている。今日の議論もふまえて案をまとめたいと考えている。

【委員】 提言の具体的な内容は、委員会の設置要綱の事項が中心になると思うが、意義に関することはかなり書いてある。実施方式と実施時期に関することは、例えば弁当と給食の選択制、中学校の献立、調理方式、給食費等の問題、食育の指導、給食費の納入問題、そのほか運営上の問題などがおおよそ項目として分けられると理解していいか。

【委員長】 はい。

【委員】 2ページの最後の文章は、学校給食の役割を「かつて機能していた家庭の役割を補うものでなければならなくなっている」とあるが、「家庭を補う」という表現はどうか。

【委員】 食育基本法では、家庭を中心にしながらも、やはり学校、それから地域の協力を得ながら、あるいは連携をという言葉を使っている。そういう表現ではどうか。

【委員】 決して学校が家庭を補完するものではないということは、理解していただけると思うが、全面的に学校が担うような過大な期待をかけられても大変ではないか。

【委員長】 全体的にもう少し考え直したいと思うが、やはり学校にもその役割があるという、そういうニュアンスは残させていただきたい。食事をそこでして、一緒に食べるというのも教育であり、そのニュアンスは残すべきと考えている。

【委員】 朝食欠食の問題だが、朝食給食を始めているところがあるというテレビ報道があり、たしかヨーグルトのような簡単な物が出されていた。

ここで朝食欠食の問題を入れると、朝食まで給食にという意見を持つ人が出てこないとも限らない。一つの項目として取り上げるのではなく、ほかの章の中で触れることのほうがいいのではないか。

【委員】 食育基本法では、朝食の欠食を一番の問題にしているのではないかと思う。そこに触れないわけにはいかないと思う。ただ、朝食を給食に求めるのは私も反対だ。朝食欠食という問題があるからこそ家庭の役割として朝食はきちんと各自で責任持つべきだと、うまく提言などに結びつけられればいいと思う。

【委員】 朝食欠食は大事な問題だからこそ、朝食を食べる重要性をきちんと指摘しておくべきで、食が大事だということを、中学校給食をこれから始めるにあたって市民皆が考え、それと同時に家庭も食が大事だということをこの機会に認識し、朝食は親の役割できちんと食べさせることが必要と思う。

【委員】 そういう形でまとめていけば私もいいと思う。朝食欠食を問題視するだけにしないようにしてほしい。

【委員】 朝食欠食は、中学生だけの問題ではない。小学校で給食をやっている、そういう問題は発生している。もっと広い課題で、中学校給食に直接的な課題として結びつくものではないのではないか。

【委員】 朝食がきちんととれていない上に、昼食も不十分だったらとんでもないということで、朝食欠食について書いた。小学生の欠食というのも確かにあるが、中学生に比べれば非常に少ないし、また小学校の場合は、給食である程度充実している部分がある。しかし、中学校は給食がない分だけ両極端になると思う。朝食をきちんと食べて学校に行く、なおかつ弁当もきちんとしている家庭と、朝食が欠食しているということは、多分昼食も、全部が全部とは言わないが、パンやあるいはコンビニの弁当で簡単にすますところに行きがちなので、それが大きなマイナスになる。朝食を食べることだけで学力が向上するとい

う多方面のデータが出ている。また、1回に食べる食品の数が少ないと、やはり成績が悪い。1回の食事で食べる食品の数は、パンと牛乳とジャムだと3、そこにハムが入ったら4と数えるが、その数値が3.9以下だと成績が悪い。そんなデータもある。

【委員】 朝食を充実させることも大事だと思う。朝食欠食のところで一番いいことは、下から4行目に書いてあるように、朝食、昼食が十分に満たされていないと、脂肪分の多い食事に偏りがちになる。すると、夕食がきちんと食べられない。その結果、夕食の時間が延びて、夜遅くなる。なおかつ次の日の朝が食べづらいという悪循環になっていくことになる。

【委員】 今、話に出たように、武蔵野市の中学生に栄養バランスの差ができています。朝食をきちんととって、弁当もしっかりしている子と、そうではない家庭の子との差というのがある。そういうところをつけ加えるとわかりやすいと思う。

【委員】 朝食を欠食する子に弁当も不十分な子が多いというのは、そうだと思う。それを給食でカバーするというねらいがあるが、それで家庭が安心しては困る。子どもの心身の発達ということを考えたら、家庭も担わなければならないということは入れた方がいい。

【委員】 朝食欠食のまとめ方についてはそれでいいと思うが、素案の内容をみると、朝食欠食の問題、若年ダイエットの問題、それから昼食の役割と実態、中高生の栄養状況、栄養面から見た弁当と給食の違いとなっており、朝食欠食がやはり浮き立っている気がする。

欠食というのは、やはり食生活の乱れだと思う。そこでこの表題をたとえば、「食生活の乱れ」とか「乱れた食生活の問題」などに変えてはどうか。

【委員長】 食生活の乱れの中で朝食の欠食は、特に大きな問題になっていると思う。中学生になると一段とふえ、これが20代、30代になるともっとふえる。だから、早くこれに手を打たなくてはいけないと思う。それを考えると朝食のことは表題として出させていた方がいいと思う。

【委員】 朝食が食べられていないという課題に焦点化して、きちんと挙げた方がいいと思う。

【委員】 朝食を食べない、あるいは昼食がきちんと栄養価が整っていないということが、その後の乱れにつながっていくということを整理していけばいいのではないかな。

【委員】 学校から帰ってきて夕飯までの間に間食を摂るとき、お腹がすいているとボリュームのある脂肪の多いものを食べる傾向がある。すると、夕飯の時間にはまだお腹がすいていない。結局その夕飯時間がずれることになり、朝起きたときに、お腹がすかないということになる。

練馬区の小学校の例で、給食を野菜の多い献立にし、家庭でもできるだけ野菜の多い食事をするようにお願いしたら、ボリュームがなくても野菜は噛みごたえがあるので、満腹感がある程度得られ、帰ってからファーストフードやスナック菓子を食することが少なくなり、夕食を食べる時間が一定になり、なおかつ朝きちんと食事を食べられたという話がある。朝食とともに昼食が両方充実していなければいけないということだ。

若い母親たちの食の教育ということで講演に行くと、小学生が朝食を食べない理由として、起床時間が遅いという話を一番多く聞く。親がどうして食事をつくらないか聞くと、やはり起床時間が遅いから朝食をつくることができないと言う。次に、親が朝食を食べる習慣がないからつくらないという人が多くなっている。「本当に必要ですか、子供の朝食」とまじめな顔をして聞いてくる親もいて驚かされることもある。今の実態は、アンケートに出てこない実態だが、それは憂うべき問題であろうと思う。私たちの常識をそのまま書いてもわからないかもしれない。

【委員】 4 ページ一番上の最後のところに、学童期後半から思春期にかけてという言葉が出てくるが学童期というのはどのくらいの年齢のことかと思う。ここでは年齢的なことを言っているのだと思うが、思春期というのは年齢的なことではないのではないか。

【委員】 栄養学では、普通、学童期と言ったら大体小学生ぐらいで、それから中学生から高校生にかけてを思春期と分けている。

【委員】 思春期というのは、ホルモンのバランスなど大きく変わってくるし、個人差があるので、年齢では特定しにくい発達段階だと思うので、この書き方でよくわかる。

【委員】 初潮年齢に個人差があるので、こういう書き方にならざるを得ないということで理解いただきたい。

【委員】 同じ項目の(2) 昼食の役割と実態の前の2行だが、「ダイエットに関しては、弁当の場合少量の食事しか持ってこないことがあるが、給食では栄養バランスのとれた食事を提供できる」という文章は、ちょっとつながらない感じがする。

【委員】 食べるか食べないかという問題はあるにしても、給食では提供できるということでこういう表現にした。

【委員】 最初は量のことが出て、後はバランスのことを言っているから文章がつながらないのではないか。

【委員】 給食だって食べない子もいるわけで、少ししか食べないという子も出てくる。

【委員】 もともと小さな弁当しか持ってこない場合と、目の前に適正な量が出てくれば食べる可能性が高くなるということではないか。

【委員】 ダイエットという理由であれば、弁当であろうと給食であろうと、いずれにし

でも食べないのではないか。

【委員】 食べるか食べないかということではなく、これぐらいは食べなければいけないということ、量やバランスについて示すことができることが、意義として大きいのではないか。

【委員】 提供ではなく、提示できるという意味か。

【委員】 食べてもらわないと困る。提示だと、ただ見ているだけになる。

【委員】 提供をして、それを食べるか食べないかは、個人の判断ということになるので、提供でいいのではないか。

【委員】 必要だという教育とか働きかけが大事だと思うが、それは無理強いするわけではないので、実際に食べる、食べないということは出てくると思う。

【委員】 弁当で少量の食事しか持ってこない子供に対して、給食では栄養バランスがとれた食事を提供できるとしてはどうか。

【委員】 7歳から14歳と15歳から19歳を比較している理由は、国民栄養調査では、15歳から19歳、7歳から14歳という年代層で区分している。ここで7歳から14歳というのは義務教育期間で、一般的には昼食に給食が実施されているところが多い世代になる。15歳から19歳は高校生ぐらいになるかと思うが、高校での給食実施は非常に少ないため、食べる量としては15歳から19歳の方が多くなるが、栄養バランスという点で見れば7歳から14歳の方がいいのは、学校給食で補っているからだと考えることができるので比較している。中学生だけという、細かな年代の栄養調査は出ていないのでこのような比較になっている。

【委員】 昼食の役割と実態だが、ここに書かれていることが実態だと思う。朝食も十分でない状況の中で、昼食というのは大事だと、一層大事だということがあると思う。しかし、中学校給食で提供されるのは、あくまで1日の所要量の3分の1だ。だから、そういう意味で、朝食も昼食に過度に頼らない方がいい。

【委員】 給食は、朝食の代用をしないということをはっきりさせておきたい。

【委員】 あくまでも3分の1の必要なものでしかないということをアピールし、朝食は朝食できちんと食べてくださいということにつなげていかなければならない。

【委員】 今まで食育は家庭の役割であるということを議論してきたし、朝食についても話をしてきたと思うが、報告書の後半の検討の部分にそういうところが少し足りないという印象を受けた。この実態と課題の中で細かく盛り込むよりも、ここでは現実的な課題であったり実態であったりということにとどめておき、私たちが検討した過程の中で、やはり朝食は家庭できちんととるべきだという部分を強く打ち出した方がいいと思う。

【委員】 食育がなぜ大事かという記述で、それが実生活で生活習慣病につながったり、

健康を損ねたりということが書いてあるが、体の成長とか生活習慣病がなぜ悪いのかということがもう少し強く出ていた方がいいのではないか。漠然として私たちの知識の中にあることだが、働き盛りの40代、50代が突然死したり、健康面での実態みたいなものも、もう少し記載できるといいと思う。

【委員】 中学生ぐらいまでしっかりバランスよく栄養をとっておかないと、生活習慣病になってしまう。生活習慣病で亡くなる人の割合がどんどん増えている。そこを最後に記載してから次にいってはどうか。

【委員】 生活習慣病を入れると説明することが多くなり、大変なことになる。

【委員長】 生涯にかかわる大きな問題だということを少し入れていただくということではどうか。

Iの中学生をめぐる食の現状と課題についてはこの程度とし、IIの中学校給食の検討についてに進みたい。素案に対する意見を伺いたい。

【委員】 弁当の意義と給食の意義で、(1)の弁当の意義と課題と(2)の給食の意義と課題は、どちらも「意義と課題」というタイトルになっているが、(1)では委員会の意見は、ほとんど「課題」になっている。(2)は3つあるが、これは全部「意義」になっている。意義と課題というプロットであれば、意義と課題をまったく同じにとりあげるわけにはいかないだろうが、意義と課題の意見をそれぞれ挙げる必要があるのではないか。

【事務局】 ここにある○印のプロットは、本文にニュアンスをうまくまとめ切れなかった部分を、報告書をまとめる途中経過として挙げたのもで、本文中にどう盛り込むかを検討いただきたいと思い、このような形で示させてもらった。

また、家庭の役割について1項を立てることも、議論いただければその方向で考えたいと思う。

【委員】 給食になれば、母親の仕事が軽減されるにもかかわらず、3割近い弁当を望む回答があるのは、給食の質とかそういうものに不満を持っているからだと思われる。そのような意見も反映していただきたいと思う。

給食は、どうしても限られた予算の中をつくるものなので、質という面では、そんなに十分な材料を使っているわけではないと思う。そういう点で考えると、弁当で十分な質の内容のものを食べさせたいと思っている保護者もいると思う。

【委員】 弁当を望む人が、小学校の食材などに不満を持っているということは、私はそうとは理解できない。むしろ今の小学校の材料は、なかなか家庭で手に入れることができないようなとてもいい材料を使っていると思う。品質の問題とか栄養価の問題といった点に不満があって弁当を望んでいるのではないと私は考えている。

【委員】 委員会の意見として、○印の意見は最終的にはなくなるということでもいいか。

【事務局】 少数意見で留保したいものとか、載せておきたいものがたくさんある場合に、どうまとめるかという点はあるが、最終的には1つの文章としてまとめていきたいと考えている。

【委員】 そうであれば、弁当の意義で「弁当はいい」とこだわっている家庭というのは、この○印の一番上にあるように、たとえばコミュニケーションとか、結びつきなどを弁当を作ることで感じ合っていると思う。そういうことが弁当の意義としてあると思う。栄養面からということだけでなく、そこを書いた方がいいのではないか。

【委員】 8ページの下から2行目のところで、献立と食材選定のところに、個人差による食べる量への配慮というのがあるが、ここの課題になるのか。献立の問題は、むしろ年齢に応じて考える必要があると思う。量の問題は、献立とはまた別の問題として、体の大きさとか、運動部に入っている子どもと入っていない子どもの違いではないかと思う。

【委員】 男女差もある。

【委員】 給食の量の課題もある程度出ているから、量についてだけ別に書くのは難しいと思う。やはり、献立内容と食材の選定の中で量を書いてはどうか。

【事務局】 今回のまとめ方は、要録の中から検討課題となったものをとっているもので、中には方向付けがされなかったものも挙げている。その点で議論をもう少ししていただきたい課題もある。委員会の議論では、1つは個人差という問題をどうするかということもあったと思うが、献立を考える上で必要な栄養所要量などは基準が決まっており、そこを変えられるのかという問題もあったと思う。結論までいかず、いわゆる問題提起で終わっていたので、そういった議論があったという意味でここに書いたが、わかりにくいところがあると思う。その辺について、どのような見解を委員会として盛り込むかという点を少し話していただけるとありがたい。

【委員】 量の問題は話されていた。話されていたけれども、では、どうするかというところまでは検討が進んでいなかったと思う。何かいい案が示せばという内容だとは思いますが。

【委員長】 量に見合った食器の検討や個人差のことは、この文章とは別にして説明し直した方がいいと思う。個人差という問題があり、それに対する課題が出たが、ここは装飾することはできないのでそのまま書けばいいと思う。

【委員】 給食には、必ずといっていいほど牛乳がついているが、たんぱく質摂取に占める割合が大きくなり、ほかのたんぱく源が押しやられてしまうのではないかと感じるがどうなのか。

【委員】 牛乳に入っているたんぱく質量は、そんなに多くない。給食では一日200ミリリットルぐらいだし、武蔵野市は小学校の献立を見ても、毎日牛乳が出ていない。和食の献立のときは、お茶を出したりしている。学校給食の基準に基づいて栄養士が献立を立てているので、それにのっとってやればよいと思う。

【委員】 武蔵野市がつくっている小学校の給食を評価し、その延長として同様の給食を中学校で実施してほしいというのが大方の意見だったと思う。それがこの大前提になっていると思う。ここが重要なところで、我々は勉強をして、実際に食べて、いいということがわかっているけれど、まず、そこを皆さんに伝えることが必要ではないかと思う。

【委員】 検討委員会でも、その認識を共通にすることが大変だったと思っている。

【委員長】 8ページの下から4、5行目。この辺はもう少し具体的に記述したほうがよいという意見として参考にさせてもらいたい。

【委員】 この学校栄養職員というのは、教師が兼務するということなのか。

【事務局】 学校給食の栄養士のことを学校栄養職員ということで、このような表現にしている。報告書ではわかりやすい言葉に変えられるか考えたいと思う。

【委員】 先ほどの栄養指導に関することは大切なことだと思うが、やはり栄養士が一番力になっていると思う。

【委員】 この場でいろいろ勉強してきた部分が、一言だけで済まされてしまっているのが理解しにくいと思う。例えば、自校方式のよさ、メリットみたいなものを具体的に報告にまとめ、境南小学校のだんらん給食で見たことなど、今、武蔵野市ではこういう給食を提供しているということについて、もう少し具体的に記述があった方がよいと思う。

【委員】 自校式であれば、栄養士が学校にいて、きょうの食材について説明をする。そういう機会があるのは、やはり自校方式のメリットだと思う。その部分を報告書に盛り込む必要があるのではないか。ここで何度も議論されてきた、栄養士がいて給食を目の前にしながら専門的な知識を伝えることができるというのは、子どもたちにとっては大事なことだと思う。

【委員】 給食を実施する大きな意義としては、栄養士からのきちんとした食事の知識を日々得ていくということがある。健全な食生活を身につけた子どもが育って次世代につながるという、よい循環をつくるのが大事だと思う。

【委員】 それを1つの理想としながらも、という記述が必要だと思う。

【委員長】 今でも中期的・長期的に何かのきっかけがあれば、理想に向かっていくという発言があった。現実的な方向として、共同調理場を生かした中学校の給食実現をということの判断をしたけれども、やはりきっかけがあれば、理想を目指したいということほど

ここに記述したいと思う。

【委員】 小学校から中学校までの9年間、昼食を学校の給食で賄うことになると、ずっと与えられるだけになる。ここでの熱心な論議や、給食の実施にともなう食材の検討や、きめ細かな活動への配慮をしても、最後には、子供たちは「食べて当然」ということになりかねない。だから、「家庭のかつて機能していた役割」という、この一節がとても気になる。忘れてはならないのは、親がつくる食事であるし、家庭で孤食でなく皆で食べる食事だと思う。子どもたちに中学校で給食を食べさせたいということはいいとしても、当然なものとして、形だけの「いただきます」では、子供たちには何の教育にもならない。

私も給食を食べてきて、脱脂粉乳が牛乳に変わったときの、あの感激はなかった。しかし、今の子供たちは衣食が足りている。その中で、なおかつ、いいものをというところの、そのメッセージを伝えることは難しいと思う。

【委員長】 9年間おいしいものを食べて、それが当然だという気持ちにさせないために、家庭の役割をもう少しどこかで強調した方がいいという意見か。

ただ、ここでは、学校の協力もどこかで少しは表現したいと思う。具体的にこう表現したらという案があれば伺いたい。

【委員】 13ページの学校運営上の課題に、子供たちの(2)の3番目の、「しかしながら、子どもたちの食育の重要性を考えたとき」というのは、「子供たちの心身ともに健康な発達を考えたとき」に給食を活用することだと思う。心身ともに、給食で出てくるものに対して「おいしいね」と言って、きょうはお母さんに「こうだった」と言えるとか、「今度、つくってみようかな」と思うような、そういう子供たちであってほしいと思う。食育という言葉が先行するのは気になる。

【委員長】 食育というのは全部含んでいるので、これはこれでいいと思うが、食育という言葉は幅広い言葉でもあるのでどう表現した方がいいかは精査したい。

【委員】 すばらしい給食を食べた子供たちが20代、30代になったときどういう差が出るのかという疑問から、自校方式の栄養士に質問してみた。その栄養士の話では、追跡調査などはないが中学生と登下校のときにすれ違くと、「給食を食べさせて」と何人も言うらしい。弁当が不満ということではないと思うけれども、とにかく給食が食べたいと。また、卒業生に栄養士になった子が何人もおり、「先生のような栄養士になりたい」という声を何人からも聞いたそうだ。

保護者に給食を食べてもらうことで、家庭で食べさせる食事のモデルみたいなものも提供できると思う。

具体的な調査はしていないとは思いますが、何割かの子供たちは、食に対する意識が高くな

るのではないかと思う。

【委員】 私も親につくってもらい食べさせてもらったものをずっと覚えているし、やはりつくってみたい、食べてみたいという気持ちになるので、実際につくってみるし、子供にもつくらなくてはいけないという気持ちになる。

丁寧につくられたものを子供のときに食べていると、大部分の人は大人になったら自分でそうしなければいけないと思う。それが親の役割ではないか。それを今は、少し学校給食が家庭の代わりになっているということがあるのではないかと思う。

【委員】 自校方式の小学校で試食したとき、栄養士の食に対する情熱が伝わってきて、子どもにいい食材を食べさせたい、正しい食に関する知識を学んでほしい、それは保護者の情熱と同等なものだと感じた。保護者がそういう情熱と栄養的知識を持って弁当をつくるのが一番だと思うが、保護者の中にはそうでない状況もみられ、食事を任せておけないということでの中学校給食スタートということになるのであれば、情熱を持った人に、食育をしていただきたいと思う。

【委員】 給食費で言い忘れたことだが、給食費の平均金額の資料が出ていたと思う。平均金額が妥当な金額という感じがあったので、そういうニュアンスをどこかに入れた方がいいと思う。

【委員】 報告書の素案で、月額5,000円という表記でも同じようなことではないか。

【事務局】 11ページの給食費のところの上から4行目からの部分で5行目の終わりぐらゐに「その額等については小学校での実績を踏まえて決めていくことになる」という形で、くくらせていただいたが、もう少し具体的に検討委員会での意見を本文に入れていこうと思う。そのときに今の発言内容も参考にしながら案を作成したいと思う。

【委員】 武蔵野市の教育に関する感想だが、小学校に提供している市の施策はととても素晴らしいものがあると思う。「あそべえ」などもとても画期的だと思うし、いろいろな意味で武蔵野市は小学校に対して本当に素晴らしいものがあると思っている。しかし、中学校になってしまうと、急にそれが薄くなってしまいうような印象がある。

議題2 その他

次回検討委員会は、平成19年3月7日（水）、午後6時30分から教育委員会室で開催することを確認した。

（閉会）